

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103177
法人名	株式会社 モロコケア
事業所名	グループホーム じゃんけんぼん
所在地	愛媛県松山市古川北3丁目12番29号
自己評価作成日	平成27年7月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の話に耳を傾け、コミュニケーションを多く取れるようにしている。利用者様の気持ちに寄り添い、自分らしく自由な生活が送れるようにしている。1日のうちに1回でも多く笑って過ごして頂けるようにしている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の自立支援を心がけたケアに努めており、職員は、「食事を自力で食べることができるようになった」「ご自分でトイレに行けるようになった方もいる」等、取り組みが利用者の生活の質向上につながっている成果を感じていた。又、植物の水やりや他ユニットへの新聞配達等の役割を持つ等、ご本人の力を活かす支援にも努めている。</p> <p>週1回、同じ時刻に娘さんから電話がある方は、直接ご本人が電話を取れるように支援している。ご本人からの希望があり、ご家族が用意したお酒で入居後も晩酌を楽しめるよう支援しているケースがある。入居間もない頃、「これまで利用していた事業所に行きたい」と希望があれば、出かけられるよう付き添ったり、友人と文通をしている方には、切手の購入や投函のサポートをしている。又、ユニットでイベントを行う際には、他ユニットや併設デイサービスにも声をかけて招待し、ユニットを超えた交流も支援している。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム じゃんけんぼん

(ユニット名) パーユニット

記入者(管理者)

氏名 藤田寛子

評価完了日

平成27年7月31日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は「一人ひとりが尊重され、健康で安全と自由があり、互いに支え合いながら、明るく楽しく生活出来るやすらぎの家」であり、事務所内に掲示し、職員全員が理解し、実践できるようにしている。	
			(外部評価) 開設時に法人代表者がつくった理念を居間や職員が集まる場所に掲示している。職員は、「利用者が笑顔で1日を過ごすことを大切にされたケア」を心がけ取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ご近所の方に楽器の演奏に来て頂いたり、地域行事に参加して交流を深めている。	
			(外部評価) 公民館で行われる地域の夕涼み会に出かけ、利用者はかき氷等を食べて楽しまれた。民生委員からの案内で、地域の「ふれあいサロン」に参加したこともある。利用者の方の教子が協力してくれて週に1回体操教室を行ったり、傾聴ボランティアの訪問がある。中学生の体験学習や高校生の介護実習を受け入れている。秋祭りには、事業所前に獅子舞いや神輿が来てくれて、地域の方達も見物に集まり、一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で意見交換をし、情報発信している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ご家族や地域の方、市の担当者の方に参加して頂き、ご利用者の状況や日々の取り組みなどを報告して意見や情報交換をし、サービス向上に努めている。	今後も会議を工夫して、地域のいろいろな立場や職種の方、又、ご家族に参加を呼びかけてほしい。会議を活かしてネットワークを拡げ、事業所の協力者や理解者を増やしてほしい。
			(外部評価) 地域からは、毎回民生委員2名の方の参加があり、地域行事等の案内がある。ご家族には、来訪時に声をかけて誘うが都合等もあり、この1年間は参加がない。会議時には、写真等を用意して、利用者の生活の様子や事業所の取り組みを報告したり、事業所独自で家族アンケートを取り、結果報告等を行い、意見を聞いている。昼食の試食会や外部講師を招いて勉強会を行うこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護支援専門員が主となり、職員も運営推進会議で会い、意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者から熱中症や食中毒の勉強会を行い、予防に努めるようアドバイスがあり、資料をいただいた。職員は、地域包括支援センター主催の同業者連絡会に参加して、勉強会や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎月身体拘束に関する話し合いの場を設けて、どのようにすれば拘束をなくすことができるかを話し合い、極力しないようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、ユニットの玄関は解放しており、出入りするとチャイムが鳴るようになっていた。職員個々に、利用者とのかわりか、虐待や拘束になっていないかチェックするリストを作っており、自分自身で振り返る機会を作っている。以前、何回もベッドや車イスからずり落ちたことがある方のご家族からベッド柵設置の強い希望があり応じている。又、車イスの安全ベルトを付け対処しているケースもあり、職員は、毎月のミーティング時に使用時間を短縮する方策等を話し合っている。安全ベルトを付けている方には、昼寝の習慣を継続し、ベッドで横になる時間を作っていた。今後も、ご家族と相談しながら利用者の安全と自由の両面から支援に工夫を重ねてほしい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  勉強会を行ったり、職員同士で日頃から気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修の機会があったが、職員全員が十分に理解しているとは言えない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  基本的に介護支援専門員が行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ご家族が来所された時はその都度状態を説明し、意見や要望を言いやすい環境になるようにしている。また、あがった意見は代表者にも報告し、改善すべき点は改善するように心掛けている。	
			(外部評価)  ご家族の来訪が多く、職員は、その都度、利用者の様子を報告してケアへの要望等を聞くようにしている。又、毎月、個々の担当職員が手紙で利用者の状況を報告している。2ヶ月に1回、「たより じゃんけんぼん」を発行しており、日常生活の様子や事業所の取り組み、入退職者の情報を名前を載せて知らせている。年2回、ご家族を招待する昼食会・夕食会には、6割以上の方の参加があり、ご家族同士の交流の機会になっている。ご家族から「出入りが開いているので、小バエや蚊がいる」と、指摘があった際には、構造上網戸の取り付けが困難なため、出入り口付近の観葉植物等を処分した。調査訪問時には蚊取り線香を点けていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			リーダー会で意見交換されている。	
			(外部評価)	
			職員で話し合い、目標達成計画の一つに「役割、楽しみごとの支援」を挙げて取り組んだ。職員は、自分の得意なことを活かして、貼り絵や切り絵、うちわ作り、たらいうどん、チョコレートファウンテンパーティー等を提案・企画し、利用者の楽しみごと作りに努めた。月1回、事業所内で勉強会を行っており、外部研修には順番に参加し、資格取得についても個別に声をかけて後押しをしている。育児休業制度の利用は3例ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			状況の把握はしていると思う。職場環境は良いと思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			各自の力量に合った研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修会や行事などで交流している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご本人の話に耳を傾け、不安を安心に変える努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会された際に利用者の状況を説明し、ご家族の要望を受け止め出来る限り努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 最優先の支援を見極め、ご本人、ご家族と一緒に徐々に良い支援が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に家事をしたり、レクリエーションを楽しんだり家族のような関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者のご家族の名前を覚え、来所時は話をし、理解し合えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と外食、外出されたり、ご近所だった方が面会に来られたりしている。  (外部評価) お盆やお正月の外泊や、時々1週間ほど外泊してご家族と過ごす方もある。週1回、同じ時刻に娘さんから電話がある方は、直接ご本人が電話を取れるように支援している。ご本人からの希望があり、ご家族が用意したお酒で入居後も晩酌を楽しめるよう支援しているケースがある。入居間もない頃、「これまで利用していた事業所に行きたい」と希望があれば、出かけられるよう付き添ったり、友人と文通をしている方には、切手の購入や投函のサポートをしている。又、ユニットでイベントを行う際には、他ユニットや併設デイサービスにも声をかけて招待し、ユニットを超えた交流も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  日中は一緒にレクリエーションを楽しんだり、家事をしたりして孤立せず関わり合えるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  必要に応じて情報交換したり、関係を続けている方もいる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  好きなこと、嫌いなこと、得手、不得手なことや知り得た情報は職員同士が口頭や、メモなどで伝え合うようにしている。  (外部評価)  普段の会話や利用者の言葉を日々の個別記録や「つぶやきノート」に記録し、希望や意向等の把握に努めている。今後さらに、利用者個々の表情をよく観察したり、言葉の背景にある本音や思いも探り、情報を集めてより本人本位の介護計画作成につなげていってほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  自宅で続けていた晩酌を継続したり、外出が好きな方は外出支援をしたり、出来るだけ馴染みの暮らし方が出来るように支援しているが、全ての方が出来ているとは言い難い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  毎日のバイタルチェックや、いつもと変わった言葉や行動は必ず日誌に書き、異変を見極め状況に応じて対応している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			(外部評価)	
			事業所は、「その方に何が必要か」を考え、「できること、できそうなこと」を採り入れて介護計画を作成している。役割や歩行練習、レクリエーションへの参加等を採り入れた計画がみられた。個々の担当者とケアマネジャーで基本プランを作成し、職員に意見を聞いている。毎日「○」「/」で実施状況をチェックし、月1回、職員で話し合っってモニタリングを行い、6ヶ月毎に評価して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族からの希望を優先し、かかりつけ医の判断を仰ぎ、受診往診の支援をしている。かかりつけ医の定期往診時には、職員と話し合いをし、関係を築いている。	
			(外部評価) ご本人やご家族の希望もあり、現在ほとんどの利用者が事業所の協力医療機関をかかりつけ医にしている。かかりつけ医の往診が月2回あり、利用者個々に月1～2回診てもらっている。専門医の受診はご家族や職員が付き添い、歯科はご本人の状況によって訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 異変があれば常時看護師と連絡がとれるようにしている。その他、朝、夕情報交換を行い支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医、看護師、介護支援専門員が行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医や看護師などから十分な説明を行い、納得していただいた上で、それに基づいた支援を職員全員が行っている。	
			(外部評価) この1年間に2名の利用者の看取り支援に取り組んだ。職員は、度々訪室して、かかわりを多く持つよう心がけた。他利用者もベッド脇で声をかけられた。終末期のあり方については、利用契約時や入居後もアンケートにてご家族の希望や意向を聞いており、現在は、ほとんどの方が事業所での看取り支援を希望している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  緊急時対応マニュアルに基づき日頃から対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  近所の方にも参加して頂きながら、定期的にパターンを変えて行っている。	
			(外部評価)  3月に消防署の協力を得て、夜間の火事を想定した避難訓練を実施している。利用者も職員の誘導で玄関前に避難した。近所の方にも参加してもらい、避難後の利用者の見守りをしてもらった。事業所は、耐火建築になっており、消防署の方から、「職員は火元ユニットの避難誘導に駆けつける」ようアドバイスがあった。今年度から年4回の避難訓練を計画しており、9月には、河川氾濫時の水害を想定した訓練を予定していた。運営推進会議時には、災害時は地域の一時避難場所として事業所を開放できることを伝えている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  ご利用者、お一人おひとりの性格を把握し、個々に合った言葉かけや、接し方をしている。	
			(外部評価)  利用者の自立支援を心がけたケアに努めており、職員は、「食事を自力で食べることができるようになった」「ご自分でトイレに行けるようになった方もいる」等、取り組みが利用者の生活の質向上につながっている成果を感じていた。又、植物の水やりや他ユニットへの新聞配達等の役割を持つ等、ご本人の力を活かす支援にも努めている。ご家族から利用者のことを「～ちゃんと呼んで欲しい」と要望がある場合は、話し合っって応じることもある。ご自分のことを「ばあちゃん」と言う利用者には、ご家族の了解を得て職員も同じように呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  よく話を聞き、その方の気持ちを汲み取り、一人ひとりに合わせて支援するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけご本人のペースに合わせ行動のサポートをしたり、趣味に合った配慮をするようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎月第三月曜日に散髪する機会を設けている。また、整髪や服装にも注意し、入浴後は化粧水をつけたり、爪切りも気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューに好みや希望を取り入れたり、食事の盛り付けや、食器拭きなどをして頂いている。	
			(外部評価) 利用者の食事メニューの希望等について、それぞれに担当する職員が聞き取り、献立に反映しており、職員が交代で調理している。食材の買い出しには、利用者も一緒に行くこともある。利用者は、ジャガイモの皮むき等、野菜の下ごしらえや食器、お盆拭き等を行っている。毎年、利用者と一緒に梅干しを作っており、朝食に添えている。調査訪問日の昼食は夏野菜カレーで、「おいしい」とお代わりを希望する利用者に職員はカレーを注ぎ足していた。カレーが苦手な利用者に別メニューを準備しているユニットもあった。以前は、利用者と一緒に食卓を囲み同じものを食べていたが、職員からの意見で、現在は、利用者の食事中は、食事の手助けや見守りに専念し、後で利用者を見守りながら持参したお弁当を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分量などを毎回記録し、量が不足しているような時は栄養剤や飲みやすいものを適宜とって頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は声掛け、出来ない方は介助し口腔ケアを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄表を付けている。時間をチェックし、声掛けしてトイレ介助の支援を行っている。	
			(外部評価) 個々の排泄チェック表を確認しながら、トイレの声かけや誘導を行い、1回でも多くトイレで排泄できるように支援している。入居時にはおむつを使用していた方が、下肢の運動を支援することで手すりを持って立てるようになり、車イスを使い自力でトイレに行けるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫、水分補給に気を付け、頑固な便秘には医師の処方薬の対応をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間は決まっているが、ご利用者の希望に沿えるよう努力している。	
			(外部評価) 利用者個々に曜日を決めて計画を立て、週2~3回入浴できるよう支援している。浴槽のまたぎが難しい方は、安全を考慮して足浴とシャワー浴で対応している。希望に応じて入浴剤を入れお湯の色を楽しんだり、好きなシャンプー等を持ち込んでいる方もある。入居直後、入浴を拒む方にはご家族の協力を得ながら支援する場合もあるが、職員との信頼関係ができると拒むこともなくなるようだ。「毎日入りたい」「一日おきに入りたい」と希望する利用者もあり、職員は「それぞれの希望を叶えてあげたい」と話していた。個々の入浴習慣や希望に沿った支援に向けて、工夫できることはないか話し合ってみてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 睡眠不足の時には居室で休んで頂いている。明かりや、空調にも気を付けて、気持ちよく休んで頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員がいつでも確認できる決まった場所に処方箋を保管し、服薬について間違いがないように注意している。薬の準備は看護師が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者個々の趣味を把握し、毎日の生活を楽しんでいただけるよう留意し支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の体調、天候を考慮しながら戸外への散歩の支援に努めている。寝たきりの方でも日光浴を兼ねて車椅子で散歩することもある。	利用者の暮らしを地域に広げていけるよう、個々の行ってみたいところや懐かしい場所、思い出の場所等も探りながら出かける機会を増やしてはどうだろうか。職員は「もっと外出して、一緒にお茶したり買い物したい」と話していた。
			(外部評価) 気候をみながら、事業所周辺や近くのはなみずきセンターまで散歩している。春には、車窓から石手川沿いの桜見物をしたり、近所のお寺等にお花見に出かけた。秋は、ドライブを兼ねて見奈良でコスモスを見たり、久万高原町に紅葉狩りに出かけている。職員は、利用者の希望を聞き、一緒に電器店に出かけて、テレビを購入するサポートをしたり、お菓子等の買い物に付き添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご利用者の希望に応じ、電話の取次ぎなどの支援をしている。毎週月曜日の決まった時間にご家族からの電話があるので、電話近くで心待ちにされている方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者が歩行の際、危険のないよう廊下の整理整頓を心掛け、トイレや浴室は気持ちよく使用できるよう清潔を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 玄関前や中庭には、多くの植物が茂り、緑豊かな空間になっている。各ユニットの玄関には、事業所の庭に咲く季節の花が飾られていた。廊下や居間には、観葉植物が配され、壁面には絵画が飾られていた。又、ソファやベンチを配置して、利用者がくつろげる場所を作っている。調査訪問時、ボランティアの方が来られて居間で折り紙を折る時間があり、昼食時には利用者が「歌を口ずさみながら折ったのが楽しかった」と話していた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者がゆっくりテレビを見たり話をしたり、楽しく食事ができるようにソファやテーブルの配置を考慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者の趣味やご家族の希望を取り入れ、安心且つ落ち着ける場所として過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室の名札には、利用者の名前の下に担当職員の名前を記している。持ち込んだタンスに、ご本人や職員が整理しやすいように「下着」「ズボン」等と記した紙を貼っている。小型の簡易冷蔵庫を置き、飲み物を入れている方や、書棚を持ち込んでいる方は昼食前に食堂で本を読んでいる姿が見られた。各居室に、ご家族や職員が準備したカレンダーを掛けており、備え付けの温度計を見て職員が室温を調節している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 歩行の障害にならないように廊下やリビングの動線に物はおかないようにしている。居室入口に名前と顔写真を貼ってご自分の部屋がわかるようにしている。</p>	